

久慈市議会 清風会 所管事項調査

<研修報告> 久慈市議会 清風会

堀崎松男、小柳正人、畑中勇吉、宮澤憲司

高屋敷英則、山口健一（公明・個人）

1. 研修テーマ (1)「野田村だらすこ工房」事業
(2)「野田村だらすこ市民共同発電プロジェクト」事業
(3)「木質バイオマス熱供給施設及び大規模園芸団地造成」事業

ア、研修場所 九戸郡野田村及び久慈市侍浜町

イ、日 時 平成27年2月25日

午後1時30分~午後4時30分

【研修所感】

*「野田村だらすこ工房」事業

- ① 野田村だらすこ工房は、民家に近いが人里離れた雰囲気の中間に和風のたたずまいで、ブリキ鉄板のストーブ、炭火の囲炉裏には鉄の三脚に鉄鍋がかかり、工房活動するにふさわしい風情があった。
代表を務める元NTT職員の大澤継弥さんは、野田村で津波が最も強く押し寄せた旭町地区で自らも家を失い、一命をも危うい目にあつたが、仲間とともに明るく生活していた。
- ② その、野田村だらすこ工房は、3, 1 1大震災で被災した人たちの「たぐきり」と「いやし」の小集会場として、復興に立ち向かう村民に大きなエネルギーを与えたようである。ただ、集まって愚痴をこぼすだけではなく、何か明日に向けてということで、海辺で津波に押し流された黒松を加工した木工品を制作したが、これが飛ぶように売れ、全国からの支援を実感したという。復興仮設住宅が野田中学校グラウンドに満5年を迎えるこの春になっても所狭しと立ち並んでいる。その仮設住宅から約25度以上とも思われる急な坂を約2km登りつめたところに位置する「だらすこ工房」は被災した人たちにどれほどの生きる勇気とエネルギーを与えたことか。
- ③ この、だらすこ工房から車で7分ぐらいのところに日形井地区がある。この地区は昔からの自給自足の生活を今日に残している。また、地区の一角にあるアジアの家群、築150年の茅葺屋根、民宿喫茶で無農薬野菜等提供する「苔屋」などがあり、往来する、田舎志向の方々に立ち寄っていただける極めていい条件がある。そうした地の利が良く

いかされていると感じた。

- ④ 震災から2年は飛ぶように売れた被災木などの木工加工品も最近売れる数が半減しているようである。被災した高齢者の趣味と実益になりさらには、村の特産品となるように「野田村だらすこ工房」の一層の発展に期待したい。

【研修所感】

* 「野田村だらすこ市民共同発電プロジェクト」事業

- ① 日形井地区にある苫家にかかわりのあるNPO法人「環境パートナーシップいわて」が、「だらすこ工房」代表、大澤継弥さんに市民ファンドの手法による太陽光発電所の建設を提案してはじめられたとのことである。被災地に売電収益をもたらすことも目的の一つといわれるが、約1800万円投資して建設された発電所は14年ぐらいで投資資金回収予定であったが、それより早い10年ぐらいで回収ができそうであるとの説明であった。
- ② その要因は、用地造成などに、ほとんどお金をかけていないことである。傾斜山林用地そのままに、単管を組んでソーラーパネルを乗せるものでしかも、仮設住宅等で運動不足な高齢技能経験者から安価で協力いただき建設していたことが特筆される。
- ③ 平成25年9月に「自然エネルギー学校in野田」を開設して、関西関東から20名の参加者があるほか、ファンド出資者が年間を通じて野田村に足を運んでくれて交流人口が拡大し、復興を後押ししていると感じた。
- ④ だらすこ工房、だらすこ市民共同発電プロジェクトが実施されるこの場所では、野田中学校の体験、視察学習が実施されるなど、将来を担う若者に貴重な学習の場を提供している。
- ⑤ 発電事業の環境整備、補修活動にも安価な労働の対価で沢山の高齢村民が活躍しており、実益以上の事業効果がたくさんあると思った。

【研修所感】

* 木質バイオマス熱供給施設及び大規模園芸団地造成事業

- ① 約20億円を投じて整備される団地は対象面積8.9ha一帯が同一の平場造成であるが、一部強固な岩盤が露出しているのが見受けられた。有効な工事手段があればと願うばかりである。

- ② 工事概要によると、緑地3ha程が余分にあると思われる。不測の事態なので、工事変更等が必要な場合、林地開発許可等早急に認可できないものかと考える。
- ③ 造成場所は、小学校グラウンド脇にあり、産業振興、再生可能エネルギー教育にも役立つものと期待される。